

▼CNCP レポート

CNCP 会員アンケート調査(その2)

シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/会員支援事業担当
社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 副理事長

横塚 雅実



前回に続いて、会員支援事業の一環として本年7月から8月にかけて実施した「会員アンケート調査」の結果のうち、自由記入で頂いた意見と、それに対する経営会議ならびに事務局の対応や考え方についてご紹介します。

■調査の目的

CNCPは、設立以来、中間支援組織としての活動のあり方を常に模索しつつ、現在は「土木と市民社会をつなぐ」ことをキーワードとして、事業を組み立てています。一方、運営体制は当初の枠組からほとんど変わりなく継続してきましたが、活動の活性化のために世代交代が必要とされてきました。

事務局では「R3年度からの新しい体制と活動の方針」を検討し、これをひとつずつ具体化する活動を進めています。その中で当会活動の基盤となる会員の実情とその意向を、確実に把握することが必要となってきました。

本アンケートは会員に対する当会のサービス向上を主たる目的として、会員の現在の意向や具体的ニーズについて何うアンケートを実施しました。

■アンケート調査結果

アンケート形式	メールにアンケートファイル（EXCEL）を添付し配布・回収
アンケートの実施期間	2021年7月24日～8月2日
アンケート送付会員	80件
回答会員	18件（22.5%=18/80）

■自由記入で頂いた意見の概要

設問ごとに頂いた自由意見の件数は表-1のとおりです。

設問Ⅰでは、CNCPが提供する支援やサービスについて、それを利用しない場合の理由や、利用しやすくする意見をいただきました。設問Ⅱでは、関与するか、あるいは関心のある社会貢献活動についてその様子を尋ね、またCNCPやその通信やサロンへの期待を記入いただきました。

頂いた意見の全てについて経営会議並びに事務局で確認のうえ意見を集約し、そのうち回答を広くお知らせしたいものを、次ページ以降に掲載しました。なお、個別の意見全ては、事務局でCNCP会員アンケート調査結果報告としてまとめ、回答頂いた方々にお配りする予定です。

表-1 設問ごとに頂いた自由意見の件数

設 問 Ⅰ		設 問 Ⅱ	
1.中立で半公的	4件	1.取組みたい社会貢献活動があるか	11件
2.法人格と公的立場	5件	2.他団体との連携を望むか	8件
3.銀行口座と資金管理	9件	3.間接的に支援したい活動があるか	5件
4.人的ネットワーク	7件	4.CNCPにはどのようなことを期待するか	11件
5.情報の発信ツール	6件	5.CNCP通信やサロンに何を期待するか	12件
6.会議室・WEB会議等	5件		
7.会員・サポーター	7件		
8.活動資金の貸付	9件		
9.NPO運営のノウハウ	7件		

会員アンケート 自由記入回答欄の意見のまとめと回答

1	来年度は、活動する「場」としてプラットフォームを用意し、その上でそれぞれのグループに自立的な活動をしていただくことを計画しています。その際に、CNCPが提供する支援やサービスについてお尋ねします。	
	中立で半公的な集まれる「場」として利用できます。CNCPを利用しない場合、それはどのような理由ですか。	
1	意見	中間支援組織が成功する条件として、事務局がコンシェルジュに徹することが挙げられます。CNCPのプラットフォームでは、それは可能でしょうか？
	回答	現在の事務局・経営会議のリソースおよび会員の皆さん相互の連携・協働の状態では、コンシェルジュ的な活動支援は不可能です。CNCPのプラットフォーム事業の狙いは、皆さんが活動を進める際に、その活動の集まりの所属を、メンバーのどこか1つの会社や団体に置くことが不都合な場合に、CNCPのプラットフォーム事業の1つとして位置づけ、様々な立場を超えて集まり易くし、かつ、CNCPのプロジェクトとして他団体にも働き掛けられるようにすることです。
2	CNCPの法人格を活かして、公的立場を得たい場合に活用できます。CNCPを利用しない場合、それはどのような理由ですか。	
	意見	単純に国の助成や後援を得ることは難しい。また市場価格とかけ離れた安い報酬で国や自治体の下請けを担う意識は全くない。CNCPが競争的資金を獲得するノウハウを持っているとは思えないから。
	回答	上記1の回答と同様です。CNCPのプラットフォーム事業は、法人格をお持ちでない団体やグループが、公的立場を得たい場合に、CNCPのプラットフォーム事業のプロジェクトとして活動することにより、対外的にCNCPの名前を使えるというものです。土木学会の小委員会が、土木学会の一組織として、外部の団体・組織に協力要請をするのと同様です。プロジェクト毎の活動は、プロジェクトメンバーによる自立した活動をお願いします。
3	同様に、銀行口座を開いて資金管理をしたい場合に利用できます。CNCPを利用しない場合、それはどのような理由ですか。	
	意見	CNCPが口座を用意したり、準備金を出してくれることは有り難い話だが、そもそもの軍資金が余りに小さく、しかも経営の素人集団ゆえに実にもちとない。
	回答	法人格をお持ちでない団体やグループには、活動資金をメンバーの1人の個人口座で管理するのを回避したいニーズがあります。任意団体でも口座開設は可能ですが、すべての団体で可能な状況ではありません。CNCPでは、その団体と活動状況に応じて、CNCPの名前で新たな口座を開設して自立した管理をお願いしたり、CNCPの口座に入れて、事務局がCNCPの資金の収支を含めて管理したりすることを考えています。後者の場合でも、それぞれのプロジェクトで活動資金の計画・運用・管理をお願いします。
4	CNCPや土木学会との連携により「専門的な知見」を持つ人的ネットワークを活かせます。CNCPを利用しない場合、それはどのような理由ですか。	
	意見	必要とするような専門的な知見を有する人たちが、CNCPにいる様子がないから。「実績のある先生」を直接探す。土木学会がそのような方を紹介いただけるとは思っていなかった。
	回答	土木学会への伝(つて)がない団体・グループへの支援として考えています。伝のない団体やグループが、専門家の助言や協働を必要とした時、CNCPの理事や事務局に相談したら、CNCPの会員へ協力を要請したり、CNCP理事の個人的なネットワークで探したり、CNCPが土木学会に相談し推薦していただくことを考えています。
5	情報の発信（CNCP通信/HP・Facebook等）にCNCPを利用できます。CNCP利用しない場合、それはどのような理由ですか。	
	意見	情報発信を外部組織に委ねることで、自分たちの情報発信力が低下すると考える。またこれまで数十の投稿をしたが、それに対して反論や罵倒を含め1件の反応もない。
	回答	CNCPのプラットフォーム事業では、各プロジェクトに自立した活動をお願いします。ただ、ご自分たちの情報発信の範囲を、CNCPの会員とその会員の所属団体およびCNCPに関心を持つフレンズにも広がると、ご自分たちの活動の広報、連携・協働の輪が広がると考えています。必要に応じて、CNCPの情報発信ツールをご利用いただけます。
6	リアル会議室・WEB会議システム等の物的なあるいはシステムの支援を利用できます。他に備えておけば良いと思う機器やシステムは何ですか。	
	意見	この種の会議システムやコミュニケーションツールは、コロナ禍を契機に、爆発的に開発されていることは承知している。公的機関とのWEB会議ではZoomは忌避されるため、Webex会議システム等の具備が必要。
	回答	会員とプロジェクトチームの要望に応じて、支援を考えて行きます。現時点ではZoomのみ利用できます。事務局にお問い合わせください。
7	CNCPには多くの会員・サポーターがいるので相談できます。今のサポーター制度にどのような不自由を感じていますか。	
	意見	これまでのサポーター制度は非常に低利用で、その目的から議論しないと話にならない。もっと地域性のあるサポーターが必要。サポーターの方の顔が浮かばないので、声が掛けづらい。
	回答	現在、CNCPには、正会員43名、賛助会員29名、サポーター125名がいます。サポーターには、理事の個人的なお付き合いで参加し、自らCNCPの中で活動したい訳ではない方が多いようです。CNCPは、認定NPO化を視野に入れ、今年度、サポーターにも会費を納めて活動に参加していただく位置づけに、定款を改訂しました。併せて、「ひろげる・つなぐ事業」を興して、会員およびサポーター間の情報共有や、相互の連携・協働が進むよう検討を始めました。皆さんのご協力をお願いします。
8	CNCPから活動資金の「貸し付け」が受けられます。CNCPを利用しない場合、どのようなところを利用しますか。	
	意見	本来は地銀の融資やファンドを募りたい。一概に言えないが、公的資金を利用するようにしている。貸し付けより助成が欲しいところで、常々公的な支援制度を探している。
	回答	CNCPプラットフォーム事業のプロジェクトで活動を始めると、活動資金が不足して困る場合があります。現在では、CNCPの収益は会費収入しかないので、プロジェクトチームに助成できる金額は極僅かです。そのため、経営会議ではファンドの勉強を始めます。2月のサロンでは、専門家をお呼びして講演をしていただきます。また、いわゆる「貸し付け」ではなく、助成した資金で活動し、収益が得られた場合には、このファンドに寄付していただくことを考えています。
9	NPO運営のノウハウを活用できます。CNCPを利用しない場合、どのようなところを利用しますか。	
	意見	付き合いのある「NPOセンター」などがあり、人脈の相談などはしてきた。恐らく所管する自治体の相談窓口を訪ねることになるだろう。
	回答	これまでもこれからも、土木技術者のOBや地元のまちづくりに関心のある方など、多数いらっしゃると思います。そういう方々が、有志とNPO活動を始めようと思ったとき、一般的なNPO支援組織の他に、既にシビル系のNPOで活躍されているCNCPの理事や法人会員の方々のノウハウを、後進に提供したいと考えています。皆さんのご協力をお願いします。

CNCPを利用しやすくするにはどのようにしたらよいですか。	
10	<p>意見 NPOの運営に関する勉強会を複数回開いていただきたい。会員からの質問や意見、気軽に書き込みができる仕組みを構築してほしい。Q&Aが活発に行われる環境が欲しい。好事例などもっと事例紹介をする。異業種交流をもっと活発に。</p> <p>回答 事務局からのアンケートで初めて要望をいただくのではなく、常時、皆様のご希望や、会員相互の広報・紹介・意見・Q&Aなどができるように、「土木と市民社会をつなぐフォーラム（土木学会シビルNPO推進小委員会+CNCPひろげる・つなぐ事業）」で、CNCPのHPやSNSの見直しの検討を始めました。基本案が出来ましたら紹介しますので、皆様のご意見をお聞かせください。</p>
CNCPは、設立以来、社会貢献活動に対する中間支援組織として活動のあり方を常に模索し、現在は「土木と市民社会をつなぐ」ことをキーワードとして、事業を組み立てています。そこで、あなた(貴社)の関与する、あるいは関心のある社会貢献活動についてお尋ねし、CNCPの機能を見直したいと思います。	
いま、新たに取り組みたい社会貢献の活動を考えている場合、それはどのような活動ですか。	
1	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナ時代を大きな転換期と見据えた上で「この国のかたち」「地方圏のあり方」を追求 ・昨今問題視されている建設発生土による災害・防災に関する検討 ・アフターコロナの新常態下における防災・減災活動に関する意見集約 ・CO2排出実質「0」社会、資源循環型社会の達成に向けた活動
同種の取り組みをする他団体との連携を考えている場合、それはどのような活動ですか。	
2	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元経済団体、大学、業種別協会、その他各種団体 ・防災・減災活動の団体との連携が国土強靭化を考える上で重要 ・中心市街地の再生を目指す団体 ・森林保全やカーボンニュートラル関連の活動
直接参加できないが、間接的な活動への支援を考えている場合それはどのような活動ですか。	
3	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点地域のインフラメンテ支援（住居地域） ・市民普請活動 ・人生100年社会を考える活動
上記の1～3などを通じて、CNCPにはどのようなことを期待しますか。	
4	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に新規事業にむすびつきそうなテーマの情報発信 ・地元の産官学のトップマネージメントに対して、あくまで裏方役として、シナリオ・ライティングが日常的な仕事 ・地域生活圏での共生社会の実現のための協創活動 ・コンシェルジュ的な活動・行動 ・社業（ビジネス）としての社会貢献活動の浸透 ・AIなどを使って取り組もうとしている課題に対する現況など、助走的情報の提供など ・現時点では具体的な案は無いが、CSV事業を進める上では同業他社や専門知識を持つ関係者との連携が不可欠 ・建設事業の一般社会へのさらなる連携、情報発信 ・全国のNPO法人の活動状況から当社として可能な社会貢献事業のシーズを得たい ・裾野の広さでサポートができる臨機応変さをもつ技術者ネットワークの構築 ・社会インフラに関わる取組課題に関しては、CNCPをプラットフォームとして活用したい <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CNCPでは、個々の課題解決への取り組みに参画して活動することはできませんが、会員の活動や抱える課題の調査、会員とCNCPに関心を持つ方々へ、上記のような活動への連携・協働の呼びかけのお手伝いなどを行います。併せて、上記1の1・2・4～6のような支援を考えています。 ・また、1の9のように、「土木と市民社会をつなぐフォーラム（土木学会シビルNPO推進小委員会+CNCPひろげる・つなぐ事業）」で、常時、皆様のご希望を投稿したり、会員相互の広報・紹介・意見・Q&Aなどができるように、CNCPのHPやSNSの見直しの検討を始めました。
CNCP通信やサロンに関して、CNCPには具体的にどのようなことを期待しますか。	
5	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木学会誌のように掲載記事が硬すぎる。「もっと趣味や遊びのリラックスできる記事」があると良い ・広報媒体として、建設界における「サードセクターならではの発言力」に期待。市民社会へのインパクトある情報発信 ・素晴らしい活動を紹介してもらえることは、社会貢献活動の励み ・種々の情報収集ができればと思っている ・考え方や思い出話ではなく、現在進行形の実践的な取り組みを紹介して欲しい ・i-Constructionにより異次元に変化している土木の世界をシリーズで紹介願いたい ・社業をバリバリこなす、現役の若い方の参加 ・通信のアーカイブ化をさらに具体化し、同種の課題に結びつけるため執筆者をグループ化したりWSを主催するなど ・個人的にはCSV研究会で議論している多くの課題に対し、海外の現状や活動事例などが非常に興味がある ・建設事業以外の取り組みを通じ、建設事業へのヒント把握 ・広い視野での情報発信、具体例が楽しみ ・市民普請に関する経緯や、今後の取組を土木学会の広報センターに聞きたい <p>回答 CNCP通信やサロンのコンテンツについても、「土木と市民社会をつなぐフォーラム（土木学会シビルNPO推進小委員会+CNCPひろげる・つなぐ事業）」で、見直しの検討を始めました。基本案が出来ましたら紹介しますので、皆様のご意見をお聞かせください。</p>